

渋沢栄一 新1万円札



2024年(令和6年) 7月3日 水曜日

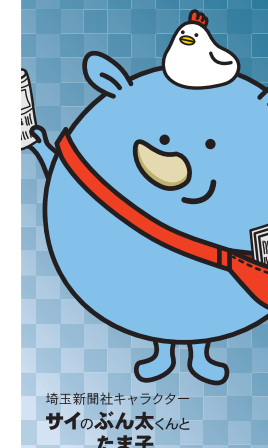
埼玉新聞社 〒331-8686 さいたま市
北区吉野町2-282-3
本社代表 048・795・9930

号外



20年ぶり新紙幣 世界初の技術使用

県内ニュースを
きめ細かく掲載!



埼玉新聞キャラクター
サイのふん太くん
たま子

1週間
無料お試し
キャンペーン
実施中!

経済・スポーツ・
学校・お祭りなど、
埼玉をより詳しく!

購読・試読のお申し込みは

0120-633-888

電話受付時間/平日・土曜
午前10:00~午後17:00

埼玉新聞 検索

深谷市出身の実業家で「日本資本主義の父」と称される渋沢栄一の肖像が用いられた新1万円札が3日、発行された。日本銀行が新紙幣を発行するのは2004年以来、20年ぶり。従来の紙幣も引き続き使用できる。

1984年から「1万円札の顔」として親しまれた啓蒙思想家福沢諭吉から渋沢への引き継ぎ式が同日、両者とも関わりのある東京証券取引所で行われ、大野元裕知事や深谷市の小島進市長ら関係者が歴史的な瞬間を祝福した。

最新の偽造防止技術を反映させ、肖像の3D画像が回転するように見えるホログラム技術を世界で初めて使用。デザインは数字の表示が大きくなり、高齢者や外国人でも識別しやすくなった。

新5千円札は女性の地位向上に尽力した津田塾大学創設者の津田梅子、新千円札は破傷風の治療法を確立した微生物学者の北里柴三郎となった。

渋沢の地元深谷市では、くす玉を割って歴史的な瞬間を祝った。

くす玉開きを行い、歴史的瞬間を祝った渋沢栄一の地元深谷市の関係者たち(深谷市下手町の八基公民館・渋沢栄一記念館)

金融+で、未来をプラスに。RESONA GROUP

「埼玉県の皆さまに信頼され、地元埼玉とともに発展する銀行」を目指します



渋沢栄一翁筆の扁額
「道徳銀行」

当社の源流の一つである黒須銀行の創立15周年を祝して、渋沢栄一翁から贈られた書。黒須銀行は、庶民の道徳の結晶である貯蓄を資本としていること、学校には有利な利子をつけ、利益の中から寄付を行っていること等により、世間から「道徳銀行」と呼ばれました。埼玉りそな銀行は、この書を取めた扁額を本社応接室に飾り、「道徳経済合一」の考え方を大切に、地域とともに発展する銀行を目指し続けます。

当社は渋沢栄一翁が掲げた「道徳経済合一」の理念が息づく地域金融機関です。創業以来変わらぬ目指す姿、「埼玉県の皆さまに信頼され、地元埼玉とともに発展する銀行」であり続けることを追求しつつ、変わり続けることを変わることなく貫く進化の精神を併せ持つことで、将来にわたって最も身近で頼りがいのあるパートナーとしての存在価値を力強く発揮できるよう、役職員一丸となって挑戦してまいります。

代表取締役社長 福岡 聡